

健康と光線

生物の誕生と進化

46億年の地球の歴史の中で、生物は太陽に依存して誕生し、太陽の恵みで進化して今があることに疑問の余地はありません。そもそも生物の起源は、約35億年前頃に太陽光線などのエネルギーを利用して合成された有機物が進化して、嫌気性従属栄養生物と呼ばれる原始生物が誕生したとされています。

この原始生物が進化して、8億年前頃には太陽光線を吸収して水と二酸化炭素（炭酸ガス）からブドウ糖（澱粉）と酸素を供給し、窒素を同化してアミノ酸（蛋白質）を合成する独立栄養生物、すなわち光合成を営む植物が登場します。この環境の変化が地球のオゾン層を形成し、酸素がなければ生きられない好氣性生物、つまり五千万種を越えると言われる生物が見事な調和の世界を築いたのです。

カルシウムと生命活動

最初の生物はカルシウムを豊

富に含む海で誕生したと考えられています。ちなみに海水のカルシウム濃度は人の血中濃度の4、5倍ですが、生物はこのような環境でカルシウムを生命活動に利用する仕組みを発達させて進化しました。その生物がカルシウムを海水の十分の一から百分の一しか含まない河川やカルシウムを食物から摂るしかないとには、カルシウム代謝を調節するホルモン系とカルシウムを備蓄し必要に応じて供給する骨が必要としたのです。

ここでビタミンDが中心的役割を果たすのですが、地上の生物がビタミンDを補う大役は、自然と共に生した暮らしをしていざるといふべきです。これが必ず浴びる太陽に委ねられたのです。換言するなら、文明を発達させて自然を遠ざけ、太陽の恵みをあなどり、生物は太

もとも生物の起源は、約35億年前頃に太陽光線などのエネルギーを利用して合成された有機物が進化して、嫌気性従属栄養生物と呼ばれる原始生物が誕生したとされています。

陽の恩寵があつて生きているという真理をないがしろにして、生命活動は成り立たないので。情報伝達と

カルシウム分布の恒常性

近時、IT革命とか情報化社

一 サナモアは太陽に替わる救世主 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

光明

カルシウム

会と言葉をよく見聞きしますが、生物は進化の過程で生命活動に必要なすべての情報を伝えられる仕組みを整備しています。

カルシウム

パラドックスと現代病

人工化学物質のフロンがオゾン層を破壊することに関連して、

太陽光線についても毀譽褒貶、

さまざまの世評があります。

臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。

八月十四日(月)、十五日(火)の両日

お休み申しあげます。

お詫び申しあげます。



讀 光 譜

「陶芸家」
宇都宮義真撮影

▽昭和15年1月に用紙の統制でやむなく休刊した「光と熱」を昭和25年1月に「健康と光線」と改題して復刊することにした。

▽私は昭和19年に45才にして一片の召集令状で徴兵され、當時の風習にしたがって一度は思い出多い光線界とも永遠の決別を誓ったのであるが、昭和21年の暮れも押し詰まつてから故国に復員し、再び光線療法の普及に全力を尽くす決意をしたのである。

▽光線療法には光線療法に独自の世界がある。その原点は光線が万物を生じた要であり、生命現象に深く関わっていることである。すなわち光線には健全な発育に欠くことのできない作用や生命力を高める作用があり、不足すると直接病気の原因となり、また病人の体力を低下させて回復力を弱めるのである。

▽このように光線療法は生命力を高めることに重きを置く療法であり、病気の治療を目的に開発された薬物療法や外科療法とは出発点から観念を置いて益々健康になり、病気を未然に予防し、病者が用いれば真に病気に勝つ基礎体力、

換言すれば自然に備わった治癒力を高める治療法なのである。

▽世の中には健康ではないが病気が案外多い。健康でなければ社会で思う存分働けないが、病名がつくまでは患者の訴えは無視され、病院では病気ではないと相手にして貰えない。つまり疑似病人であるが、間もなく真性病人になる運命の人々である。

▽何となく体がだるい、頭が重い、根気が続かない、食欲がない、動悸息切れがする、疲れ易い、このような病気の前兆かも知れない時期が実は最も大切なのである。火事でも発見が早ければバケツ一杯の水で消せるが、大火になるとあちこちから消防自動車が駆けつけても燃えるだけは燃えてしまうではないか。

▽この疑似病人の時期に光線療法をすれば甚だ有効である。既に述べたように光線療法は生命力を高める自然療法であるから、必ずしも病名は必要ない。光線療法で生命力を高め、体の異常を正すことは万病に有効なのである。

▽そんなに良い療法ならどうして病院で採用しないのか、よ

く受ける質問である。医師は良い療法なら総べて応用するものと思っているらしい。

▽医師は病気を診断し、薬物療法や外科療法を行う専門家としての教育は受けたが、専門以外の分野、例えば鍼、灸、漢方薬のような治療法を始め巷で広く用いられているいわゆる医業類似行為については法をするようになった。数年間で姿を消すような新薬よりも多くの医業類似行為についてはあまり最も古い療法でありながら最も新しい療法もある。

▽平和な時に平和の有難さが分からぬよう、健康な時に健康の有難さは分からぬものである。しかし不治の病と宣告されてから、医学の無力や無能を悔やんでも始まらない。あなた自身をあなたが守る、それには健康を増進し病気を予防することが出来る光線療法を、これから予防医学に行なう。この医師に光線療法のことを聞いても到底満足な答えは得られないのは已むを得ない。

▽医学は進歩したと言われる一方で、神経痛やリウマチの患者が大病院を怨めしそうに眺めて鍼や灸や温泉や神様を求めて右往左往しているのが実

これからは 予防医学

宇都宮 義真

情である。彼らがなぜ大病院に行かないのか、彼らは経験るものと思っているらしい。

▽ある医学博士が感ずるところがあつて、リウマチの光線療法をするようになった。数年間で姿を消すような新薬よりも多くの医業類似行為についてはあまり最も古い療法でありながら最も新しい療法もある。

▽平和な時に平和の有難さが分からぬよう、健康な時に健康の有難さは分からぬものである。しかし不治の病と宣告されてから、医学の無力や無能を悔やんでも始まらない。あなた自身をあなたが守る、それには健康を増進し病気を予防することが出来る光線療法を、これから予防医学に行なう。この医師に光線療法のことを聞いても到底満足な答えは得られないのは已むを得ない。

▽医学は進歩したと言われる一方で、神経痛やリウマチの患者が大病院を怨めしそうに眺めて鍼や灸や温泉や神様を求めて右往左往しているのが実

▽昭和25年から昭和30年の間に発行した「健康と光線」に記述された一葉々非々を要約した。

サナモア光線治療院九月に開院

院長 医学博士 宇都宮 正範

サナモア光線協会では、サナ

モア光線協会ビルの竣工を待ち、本年九月にサナモア光線協会附

属サナモア光線治療院を開院す

る予定であります。治療院は、

一人でも多くの方に光線療法を

体験して頂き、その良さ、効果

を実感してもらうことを目的と

しており、近い将来、必ずサナ

モア光線療法の普及につながる

ものと考えています。光線療法

を体験されたことのない方はも

ちろんのこと、すでに治療器を

お持ちで在宅療法を行っている

方も、是非、一度、足をお運び

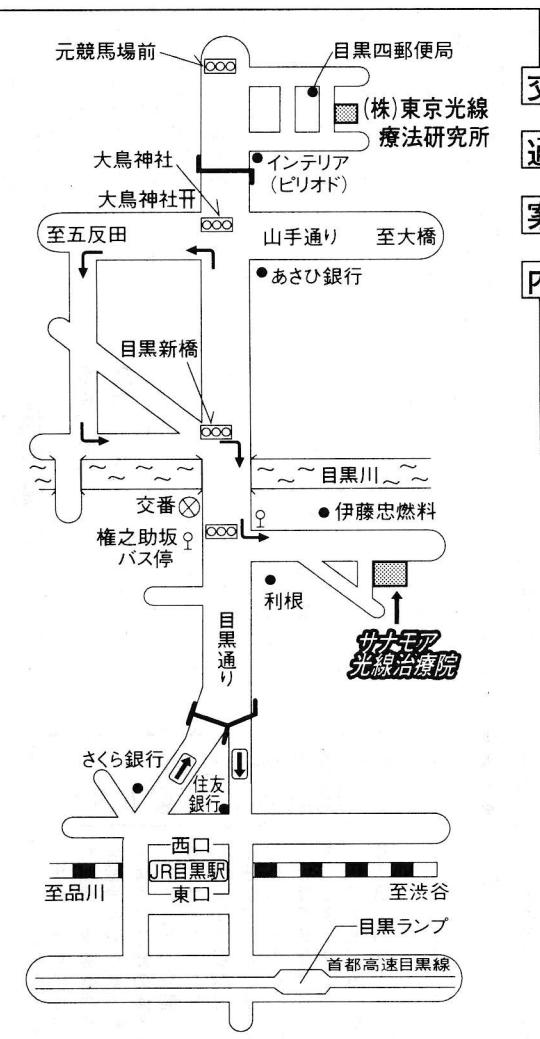
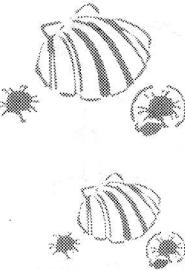
下さい。

なお、しばらくの間、皆様に

はご迷惑をおかけすることも多々

あるかと思いますが、ご容赦の

程お願い申し上げます。



開院時間

午前十時から十二時三十分
午後一時三十分から五時三十分
日曜、祭日は休院

の概要

—サナモア光線治療院

主な業務

①ルーフ式マルチ・アーク療法

による光線治療（約一時間）

の販売は致しませんので、ご購入の際はこれまで通り（株）東京

光線療法研究所までお越し下さい。

③ごく簡単な検査

なお、光線治療器、カーボン等

の販売は致しませんので、ご購入の際はこれまで通り（株）東京

光線療法研究所までお越し下さい。

交通案内

料金

治療代金 五千円

初診料（初回診察時） 五千円

医療相談 五千円

バス：目黒駅よりお越しの場合

歩歩：目黒駅「西口」から六分

車：「権之助坂」バス停下車

徒歩一分。バス停手前の信号

にて目黒通りを横断しそのま

ま約100m進む。

お車でお越しの場合

大鳥神社交差点（山手通り）

方面より

目黒駅方向に進行し、目黒川

を渡り最初の信号を左折し約

100m直進する。

首都高速目黒ランプ、白金方

面より

大鳥神社交差点を左折し山手

通りの側道を進み突き当たり

を左折、約200m進み目黒川沿

いの道を再び左折し、目黒新

橋交差点を右折し目黒通りに

出たら最初の信号を左折して

約100m直進する。

（治療院へ入る道が右折不可

のため、矢印のように転回し

て下さい）

住所

東京都目黒区目黒1-23-11
サナモア光線治療院

電話

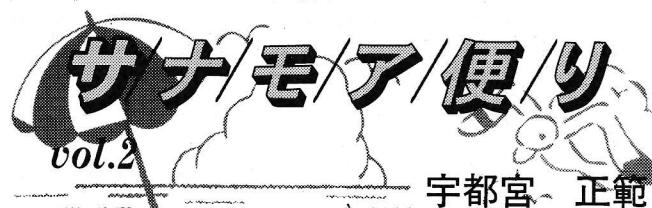
T E L (03) 5759-3710
F A X (03) 5759-3720

（開院後に開通します）



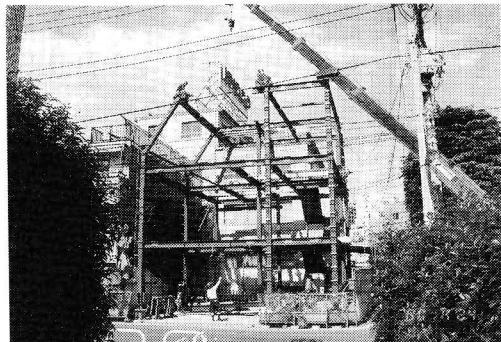
(写真上)

月竣工、九月開院に向け、これから急ピッチで進む予定であるが、この治療院はサナモア光線療法普及のための第一歩であり、完成が待ち遠しい気持ちである。



宇都宮 正範

前号で紹介したサナモア光線治療院の建設工事も順調に進み、四月二十日からは鉄骨の組み立て作業が始まり建物の外観が姿を現した。隣接する住宅より一回り大きいその外観は、前が学校のグラウンドのためか一際目立つており、完成した際には、目黒通りからも十分見渡されることと思われる。



建設中の治療院



研究会参加者



光線治療院紹介

緑山光線治療院 (写真下)

(六月一日開院)

電話

(〇四四) 九八六一五四三〇

住所

町田市三輪緑山二一六一十一
交通・小田急線鶴川駅よりバス
ス五分「鶴川緑山住宅」バス

停下車徒步二分

院長・梶原 勉氏

一言・皆さんの健康のためのお手伝いが、少しでもできればと思います。

完成間近

サナモアカウンセラー 養成講座を東京にて

「光と熱研究会」発足

で、サナモア光線療法普及の成 果が期待される。

四月六日(木)から三日間の日程で、サナモアカウンセラー養成講座を東京本部において開講した。参加は男性一名、女性二名の合計三名で、地方から泊まりがけで参加頂いた方もいた初めてのカウンセラー三名となるが、全員、光線療法の良さを自身で体験されている方なの

で、無事三日間の講座を終えることができた。当協会が養成した治療師とカウンセラーのみとしているが、サナモア光線協会ビルが完成した暁には、広く参加を呼びかける予定でいる。

研究会の内容は、光線療法や医療に関連した話題の講演、治療師、カウンセラーの治療経験や

近況報告が中心となるが、会員の方々が気兼ねなく集まれる会にしていきたい。

◆募 集 ◆

サナモア光線治療師
サナモアカウンセラー

当協会の趣意に賛同され、
サナモア光線療法の普及に
ご協力頂ける方、治療院の
開業を検討なさりたい方は、
サナモア光線協会までお問
い合わせください

〒153-0063
東京都目黒区目黒4-6-18
TEL (03) 3793-5281
3712-5322

サナモア光線治療院

の果たす役割

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 正範

(現)代社会はかぜをひいたらすぐ薬といった風潮にあります。が、私は、幼少から、かぜは光線療法で治して、いたため、長らくかぜには光線をかけるものと信じていました。そんなある日、友人にかぜをひいたから光線をかけると言ったところ、全く意味が通じません。どうして分からぬのか不思議でした。家族は病気になつたり、けがをしたり、何かあればすぐ光線をかけるし、祖父の家には光線治療器があり、カーボンはわが家に所狭しと置かれていきました。今思うと自分が光線で育つたような気がしますが、おかげで薬を飲んだ経験がほとんどなく、薬はテレビで宣伝されていたパンチロンや龍角散くらいしか知りませんでした。

(二)んな調子ですから、医師として働き始めた当初、薬が中心の現代医学には抵抗を感じました。ただ何年もいれば薬の効果を実感したし、時には、自分の処方で病気を治したような気になつたこともあります。その反面、患者のあまりに多い薬を見て、どうしてこんなに必要なのだろうかと疑問にも思いました。

△ 警 告

家庭用光線治療器「はづらつさん」は、カーボンをローラーで自動的に送りますので、5分きざみで60分まで照射時間を自在に設定できます。この機能を支えるのが接続できるIBIサナモアジョイントカーボンです。「はづらつさん」はカーボンの残りが6cm前後で新しいカーボンを接続しないと、カーボンがローラーからはずれ大変危険です。一方、ジョイントカーボンは無駄なくスムーズに次のカーボンに移行し、安全性を保ち、事故を未然に防ぎます。そのため「はづらつさん」にはジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。なお使用上の注意は、「はづらつさん」取扱説明書をご覧下さい。

サナモア光線協会

はづらつさんご愛用の皆様へ

(薬)が巷に溢れ使われた二十世紀は間もなく終わり、これから迎える二十一世紀の医療は、遺伝子治療を始め、さらなる飛躍が予想されます。それに比べ、一八九三年にニールス・フィンゼンにより創案されたカーボン・アーク灯は、完成から百年の歳月が流れました。おそらく、現

可能性を秘めています。

(サ)ナモア光線療法が、現代医学に取って代わることはありえないし、そのようなことを望むべくもありませんが、病気やけがの際の治療法として、サナモア光線療法を一人でも多くの

人が認識してもらうことが、サナモア光線治療院の果たす役割の一つであると考えます。

た。ただし、これだけの薬を飲んで本当に役立っているのならいいですが、必要ななさそうな薬も入っています。また、薬の副作用のために、ならなくていい病気を患ってしまった人も見えてきました。先日も、ロキソニンという消炎鎮痛剤で劇症肝炎を起こし亡くなられたという不幸な記事を読みましたが、薬は時に重大な副作用を引き起こす

可能性を秘めています。

在の病院において、これだけ長く変わらずに使われている治療法はないでしょう。これから先どんなに医学が進歩し、人類の英知を結集したとしても、これだけ長期に使われる治療法を作ることは難しく、太陽の恵みを利用した自然療法だからこそ、

光線療法は百年の風雪に耐えて存在し、二十一世紀も欠かせない治療法であり続けることと思

います。

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行。

二、サナモアカウンセラーの募集と育成。
三、サナモア光線治療師の募集と育成。
の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

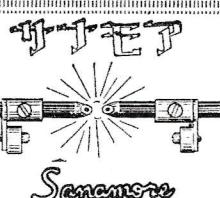
「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒103-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)3793-1528

三七一二一五三二二

(本紙の無断転用を禁止します。)



サナモア光線協会

趣 意 書